

森と緑の会だより

【表紙写真】

伐木見学&体験 in 北川村木積

令和3年度こうち山の日推進事業（主催：中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会）にて、9月26日（日）にチェーンソー導入以前（昭和30年中頃まで）の伐倒技術を当時の木こり（杣：そま）から教わり、大径木を斧や杣鋸で切る体験や見学などを通して林業の歴史と技を学びました。

春号

2022





「緑の募金」による植樹活動

毎年秋に募集する苗木支援や交付金、当会支部が実施する植樹事業等で、令和3年度は県内126カ所に3,400本の苗木が植樹されました。



11月7日(日)

仁淀川流域山林保全育成の会

日本一の清流仁淀川の水源涵養機能を高めるため、仁淀川流域の関係者や一般参加者75名が参加し広葉樹1,000本を植樹しました。



1月22日(土)

高知県立春野総合運動公園

天皇陛下ご下賜金と高知北ライオンズクラブからの寄付により、ヤマザクラ8本を体育館近くの歩道沿いに植樹しました。



2月27日(日)

船戸活性化委員会「四万十川源流点」

津野町船戸地区のシンボルとなる里山づくりとして、地区住民ら22名が参加し、桜やイロハモミジなど200本を植樹しました。



各市町村には林業関係の課に当会の支部が設置されています。2月27日（日）に中土佐町支部（中土佐町農林水産課）との共催で植樹イベントを行いました。

美しいまちづくりへ

中土佐町は南海地震による津波などの災害に備えて役場、消防署、保育所を高台に移転しました。その工事に伴って伐採した山の斜面に、住民からの要望により春に花の咲くハナモモ 80 本を植樹しました。

美しい景観で町内外の人を迎えたい、また災害時の避難場所を日頃から住民の憩いの場としたいという思いが込められています。今回はコロナウイルス感染防止の観点から参加者を中土佐町在住の方に限定し、住民や役場関係者等 61 名が参加しました。



美味しいお寿司ができるまで

～山と海はともだち～

講師の山口奈津子さん（高知県水源林育成士）より、森の働きや森林保全の必要性について、紙芝居を使ってお話しいただきました。きちんと整備された山の地面にはお日さまの光が届き、草木が生え、木々が深く根を伸ばすから土砂災害が起きにくくなることや、枯れた葉っぱなどが集まったフカフカの土は微生物や虫などの住みかとなり、その栄養をたっぷり含んだ水が川に流れ、その水で美味しいお米が育つこと、山の水が海を豊かにするから大

好きなお寿司が食べられることを子どもたちに伝えました。



講師の山口奈津子さん

子どもたちの喜びと住民の願い

山口さんから子どもたちに「おうちに帰って家族の人と一緒に年輪を数えてみてね」とヒノキの輪切りがプレゼントされ、子どもたちは大喜びでした。年輪を見ると成長幅が大きく違うことがあります。その年に遡ると大きな気候の変化が起きていたなど、木にはその土地の歴史が刻まれているというお話を参加者は興味深く聞いていました。



参加者が木のプレートに願いを書いて、苗木に結びました。

「大輪の花を咲かせて、中土佐町を見守ってね！」

～参加者の声～

●良い体験ができました。ハナモモの成長が楽しみです。●未来が楽しみになるワクワクしたイベントを親子で体験でき思い出になりました。●山口さんのお話しが勉強になりました。「森は海の恋人」を伝えてください！

森林ボランティア養成講座

森林ボランティアは間伐や下草刈りなどの整備を行い、森が本来持つ機能を発揮できるように森林保全活動に取り組んでいます。現在、県内で活動するボランティアは60代から70代が中心のため、新たな人にボランティアに参加してもらう機会として、当会日高村支部と共催で養成講座を実施しました。全6回のチェーンソー・刈払機の安全講習や間伐実習等に14名が参加しました。



令和4年も森林ボランティア養成講座を予定しています。詳細については、ホームページで告知します。

窪川の町を望む ツリーハウスを作ろう！

緑と水の森林ファンド

身近な里山を利用して山との関わりや森林資源の大切さを伝えることを目的に、四万十町観光協会との共催で、ヒノキの間伐材を活用したツリーハウスを制作しました。

10月31日(日)にはヒノキの皮剥ぎ体験を行い、14名が参加しました。県内で150棟以上のツリーハウスを制作した浜氏拡さん(アジロ山の自然と環境を守る会 副代表)から木材活用が森林保全となることやヒノキの特徴、ツリーハウス制作工程などについて説明を受けました。

10月から2月にかけてボランティアのべ86名が参加し、ツリーハウスを完成させました。



参加者の声：皮剥ぎ体験がとても楽しかったです。素人でもできて、達成感を味わえました。

歴民の桜を元気にしよう ボランティア募集！



樹木医の指導を受け、県立歴史民俗資料館の桜の胸吹き枝や枯れ枝の除去を行います。地域の桜の手入れの参考にもなりますので、是非ご参加ください。

日時：令和4年6月5日(日) 9時から16時

※小雨決行 6月7日(火) 予備日

詳しくは、ホームページ「イベント情報」をご覧ください。



こうち山の日推進事業

高知県の森林環境税を活用した補助事業

高知県の豊かな森林を次代に引き継いでいくため、「こうち山の日（11月11日）」制定の趣旨に沿った普及啓発に取り組む活動を支援しています。令和3年度はコロナウイルス感染症対策を講じて20事業が実施され、のべ2,455名が参加しました。

高知県青年団協議会の取り組み

デノモノ・ヨソモノ実践ミーティング～MAKIWARI&KUSAKARI～

11月6日（土）と7日（日）、四万十市西土佐で農山村に暮らす若者が身近な山や森に関心を持ち、移住者が地域に溶け込むきっかけ作りとして、薪割りや草刈り体験を通じた交流が一泊二日で行われました。主に高知県と愛媛県から地域おこし協力隊や青年団、日頃から地域に関わっている方々などが参加し、山での作業技術を身につけるとともに、生活に関わる林業について関心を深めました。

1日目は地域活動の事例を発表し、自伐型林業の魅力と可能性をテーマに講師の話しを聞いて里山との関わりや林業の知識を学びました。その後、薪割り機や草刈機を使って実践を行い、薪の活用例として移動式軽トラサウナを体験しました。これ

には講師の宮崎聖さんが今まで行ってきた、木工、薪ストーブ、薪発電、ドラム缶風呂、被災地での活動、学校での防災学習などの全てが活かされています。

高齢化や経済的理由で担い手不足とされる林業ですが、幅広く生活に活かすことができ、アイデア次第で林業の可能性は広がることが分かりました。

2日目は青年団や地域おこし協力隊を中心に今後について話し合い、2日間を通して林業に親しみ、考える機会となりました。



青年世代を地域環境の守り手として育成し繋げていくこの活動が継続、発展することを願っています。



薪割り体験で割った生木は半年間乾燥させると薪として使えるそうです。草刈りに適した装備や草の刈り方、危険な事例などについて、講師から指導を受け周辺の草刈りを行いました。

令和4年度こうち山の日推進事業費補助金のご案内

募集締切 5月20日（金）消印有効
2次募集を行う場合はホームページで告知します。

事業期間 交付決定日から2023年1月末まで

※募集の詳細は、当会のホームページでご確認ください。

保育園・幼稚園、学校などに「山の一日先生」を派遣して森林環境学習を行っています。令和3年度は4団体がこの事業を活用して講師を派遣し、4,848名の子どもたちが森林環境学習や体験学習をしました。

プログラム紹介：森林環境学習と木育クラフト

8月4日（水）、一ツ橋小学校放課後児童クラブきのこにて、平子真治先生（HIRAKO Lab ヒラコラボ）による山の一日先生の学習プログラムを実施しました。

木から学ぶ

6才から10才の19名の児童が参加しました。丸太の玉切り（長さ20cmほどに切り揃えた丸太）を見せて、その丸太からどんな印象を感じるかを自由に発表してもらいました。そして、木が割れている様子や木の表面、太さ、年輪などの質問を受けながら木や森の話しをしました。

この木が伐られた時の森がどんな様子だったのかを「明るい森」と「暗い森」の写真を見せてどちらか選ぶクイズをしました。暗い森が正解だと知って驚く子どもたちが多かったです。そして、太陽の光に

よって木が太く成長することや人工林は人が手入れをしないと暗い森になってしまうことを伝えました。

ペンダントづくり

まずは、輪切りした木をハンマーで割り、木の欠けらを作って見せ、一つ一つ違う形から自分だけの宝物にしたい木を選んでもらいました。そして、木を削る音や香り、手触りなど木育の大切な要素である五感を使って木の変化を感じてもらいながら、紙やすりで表面を削り、磨き仕上げる作業をしました。

最後に、木の欠けらの木目から木の年齢や森の状態がわかることを知ってもらい、学習を終えました。



森林環境学習プログラム集 「YAMA NAVI：山学」の紹介

「身近な自然に親しむ」、「森林の働きを知る」、「森林資源の活用」、「山・川・海のつながり」、「地球温暖化・エネルギー」に分類された30のプログラムを当会ホームページでご覧いただけます。山の一日先生との学習や森林イベントなど、森林環境学習の企画にご活用ください！

https://www.moritomidori.com/business/yama_gakusyu_program.html

地域住民や森林所有者らが協力して行う里山林の保全、森林資源の利活用などの取り組みを支援しています。令和3年度は43団体が県内各地で活動を行いました。

土佐山七厘社(高知市)の取り組み

高齢化の進む中山間地域で、平成25年に若手移住者と地元の60代以上のベテラン世代により活動組織を結成し(現在構成員8名)、炭焼きを通して持続的な山林資源の利活用に取り組んでいます。

平成27年度からは交付金事業を実施し、初期の2年間でチェーンソー・刈払機・運搬車などの必要な機材を購入できたことで効率的に作業を行えるようになりました。森林機能強化タイプで作業道を作設し、里山林保全タイプで人工林や雑木林の除間伐、竹林整備で侵入竹の除去や筍の採れる竹林へと整備していくなど、無理なく作業を行うように計画を立てています。

炭焼き窯は元々あったものを地域の住民と一緒に修復し、隣接地に交付金で炭焼き出し小屋を整備しました。間伐した広葉樹を炭焼き材として活用し、出来上がった木炭をメンバーや地域住民の方、購入を希望する地域外の方に販売して団体を維持運営するための貴重な収入源としています。

最近では生活道や田畑の支障木、放置竹林

の除去、民家、神社の裏山林の整備などさまざまな住民の要望を集約・協議して地域全体の山林整備を行い、地域のコミュニティ作りや活性化を図っています。



道路際の放置されていた竹林について、雑木や余分な竹を除去して景観をよくしました。

令和4年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金のご案内

募集期間	2次募集を行う場合は6月上旬にホームページで告知します。
事業期間	交付決定日から2023年1月末まで
支援の対象	<ul style="list-style-type: none"> ・3人以上で構成する活動組織であること ・森林経営計画の策定されていない0.1ha以上の森林であること ・3年間活動を行うこと

支援できる内容

【地域環境保全タイプ】里山林の景観を維持する活動や侵入竹の伐採・除去・荒廃竹林の整備活動

【森林資源利用タイプ】薪炭材やしいたけ原木などとして利用するために広葉樹等を伐採・搬出する活動

※この他に上記と組み合わせた作業道整備や鳥獣害防止策の設置、資機材の購入・設置に対する支援もあります。



緑の募金にご協力ありがとうございました！

令和3年（令和3年1月1日～令和3年12月31日）募金額

11,109,252 円

皆さまからの募金は、地域の緑化や県内各地の森林整備等に役立てられています。

令和3年度緑の募金感謝状贈呈

毎年、一定額以上の寄付をいただいた方や募金活動に協力いただいた方に感謝状を贈呈しています。

国土緑化推進機構理事長 感謝状

- ・マックスバリュ西日本株式会社

高知県知事 感謝状

- ・株式会社よどや

高知県森と緑の会理事長 感謝状

- ・ダイドードリンコ株式会社
- ・株式会社土佐山田ショッピングセンター
- ・マルワ興業株式会社
- ・株式会社サニーマーケット
- ・株式会社四国銀行
- ・株式会社ウイル
- ・株式会社フジ・リテイリング



マックスバリュ西日本株式会社様より有料レジ袋の収益金 931,742 円を緑の募金としてご寄付いただき、10月19日に高知県庁にて感謝状贈呈式を行いました。

春の緑の募金キャンペーン

3/1から5/31は春の緑の募金強化期間です。
緑の募金にご協力をお願いします！

● 緑の募金グッズ

「くろしおくん木製バッジ」が緑の募金グッズとして新登場！！500円以上の募金でご希望の方にプレゼントします。



©高知県くろしおくん R040088



4/15（金）から4/17（日）のみどりの週間行事にて、第50回記念植樹を行い、体験イベント、街頭募金活動などで多くの方に募金にご協力いただきました。

● 緑の募金箱

高知県内の量販店、ホームセンター、銀行、道の駅、体験施設などに募金箱を常設しています。
見かけたら募金のご協力をお願いします！



新たな募金箱の設置についてもお願いしています。



発行

公益社団法人高知県森と緑の会

〒781-8010 高知市棧橋通 6-7-43 総合保健協会合同庁舎 5 階

電話番号 088-855-3905 FAX 番号 088-855-3906

E-mail : info@moritomidori.com URL : www.moritomidori.com

ホームページでイベント情報などを随時お知らせします >

